

平成29年度 綾瀬市立綾瀬中学校 学校関係者評価報告書

		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		学校経営の方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲をもって学習する人</li> <li>相手の気持ちがわかる心やさしい人</li> <li>困難をのりこえてやりとげる人</li> <li>心と身体の健康な人</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 同僚性(助け合い、励まし合う仕事の仲間)を構築し、全職員が一体化した迅速な指導・支援に努める。</li> <li>2) 「わかる授業」「意欲を育む授業」の追求のための校内研究の推進に努める。</li> <li>3) 個々の教育的ニーズに対応するための支援教育の充実にも努める。</li> <li>4) 生徒の学校生活を充実させるため部活動を全職員が協力して支援することに努める。</li> </ol>
今年度の重点目標		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自ら学び、自ら考える生徒を育てる</li> <li>2 自他を大切にする気持ちを育てる</li> </ol>		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒と保護者の約8割が肯定的回答でした。教職員は9割が「工夫改善をしている」と答えています。校内研究を軸に、言語活動の充実を目標に授業改善に努めたことが、生徒の意欲や職員の意識向上につながっていると思われま。また、少人数授業や放課後の学習室の取り組みなどで、一人ひとりの課題の克服にも力を入れてきた成果と考えられます。課題として家庭学習への取り組みせ方は、さらに工夫や改善が必要だと思われま。家庭との連携を図り、「家庭学習の習慣化」に向けた取り組みを行うことが必要だと考えま。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	8割を超える生徒・保護者が「積極的に参加している」と回答しているように、体育祭や合唱祭は、意欲的に取り組む様子が伺えま。生徒の自主性や主体性を重視し、全職員が協働して指導している成果と思われま。また、行事を参観する保護者の数も多く、学校の取り組みに対する理解も深まっていると思われま。今後とも生徒活動の様々な場面において、生徒一人ひとりの自主的、主体的な活動を大切にし自己有感や達成感を味わえるような活動の支援を心がけ取り組んでいきま。
3 児童・生徒指導	学校は「相手の気持ちがわかる心やさしい人」を育てる指導を積極的に行っている。	9割の生徒・保護者が「思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。一方、9割を超える教職員が「良好な人間関係づくり」に努めていると答えています。本校 生徒の素直で心やさしい気質は、教職員、生徒、保護者の人間関係にも支えられていると考えられます。また、PTAあいさつ運動など、保護者の協力体制も大きな支えになっていま。今後とも生徒との良好な人間関係づくりを意識し、道徳教育や読書活動の推進に努め、生徒の「豊かな心」を育てていきま。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	8割を超える生徒が「学校生活が楽しい」と回答しており、学校生活にほぼ満足している様子が見てとれま。これは、学校行事や部活動の充実が満足感や自信につながっていると思われま。また、生徒一人ひとりのさまざまな課題に丁寧に対応した成果とも考えられます。一方、否定的回答も少数いることから、人間関係や学習面などさまざまなことへの課題や不安を抱えていることが伺えま。今後とも月末のスクールアンケートや学級集団アセスメント、教育相談等、生徒理解にむけた有効な取り組みを継続して行うとともに、いじめの早期発見や再発防止の取り組みを徹底し、生徒が安心して楽しいと実感できるような学校生活の支援の工夫をしていきま。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	ほとんどの教職員がいじめの早期発見・再発防止に「努めている」と答えているのに対し、保護者の肯定的回答は約6割でした。昨年度の5割より改善されてはいますが、4割の否定的な回答を受け止め、全職員でいじめの早期発見・再発防止の取り組みを徹底していく必要があると考えられます。具体的な取り組みとして、SNSが起因するいじめ等の未然防止にも力を入れるとともに、発見事後の指導と見守りを大切にしま。また、学級活動や道徳の時間を通して、生徒の思いやりの心を育てるように、一人ひとりが大切にされる学校・学級づくりを目指した指導に努めていきま。
6 保健管理	学校は「心と身体の健康な人」を育てる指導積極的に取り組んでいる。	8割を超える生徒が、健康や体力に関心を持って生活していることがわかりま。一方、教職員の肯定的な回答が多いのも、生徒の姿に反映されているのではないかと考えられます。今後とも、生徒の心と身体の成長にむけたきめ細かい支援を行い、生徒が健康に学校生活を過ごせるよう、現在の取り組みを一層充実していきま。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	アンケートの結果から、安全を意識した教育活動が実践されていることへの肯定的な回答が9割以上あることがわかりま。また、同様に施設の点検・整備にも努めていることがわかりま。さまざまな場面において、非常事態を想定し、生徒の安全確保に対する職員間の問題意識が高まった成果と思われま。今後とも、地震・天候災害等を想定した防災教育を計画的に実施し、生徒・職員の災害時の対応にむけた意識を高めるとともに、定期的な施設の点検・整備をすすめ、生徒の安全に努めていきま。

8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	ほとんどの教職員が個に応じた支援の工夫をしていると回答しています。今後も、全教職員の共通理解のもと、生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズに応じた支援が強化できるように、校内の支援体制の整備に努めていきます。また、保護者との強固な信頼関係を築くとともに、スクールソーシャルワーカーの活用や教育相談関係機関とも連携を強化させ、より充実した生徒支援に取り組んでいきます。
9 組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織になっている。	肯定的評価をした職員が昨年は約8割でしたが今年は約6割に減少しました。職員の入れ替わりが多かったことが原因と考えられます。各グループの所掌事項や昨年までの取り組みの確認をグループリーダーを中心として行っていくことが必要になってきていると考えられます。今後も、学校運営組織がより機能するように建設的に評価・見直しを行い、連携・協働して業務が遂行できるように意識向上を図っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	教職員の校内研究への取り組みに対する意識は、昨年度とほぼ同じ割合となっていますが、「そう思う」の回答は18%増加しています。校内研究が停滞しないように、今後も、校内研究推進委員会を中心に、授業改善にむけた取り組みを推進させ、教科指導力を高めていきます。また、日々の授業の中で指導力向上・授業改善への意識が向上するように、指導者同士の参観や教科会の充実を図っていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の育成のための工夫をしている。	教職員の8割強が、学校教育目標・指導の重点を意識した教育活動をしているのに対し、目標や重点を知っている保護者は5割強に留まっています。保護者への教育目標の周知を図るとともに日々の教育活動を参観していただく呼びかけをする工夫が必要だと思われます。今後も、これまで以上に保護者・地域と連携して本校の教育についての理解をいただき、子供たちを育てる基盤を築けるように努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の肯定的回答が71%で、昨年よりやや向上しました。しかし、教職員の回答100%とは差があるといえます。学校通信など、紙面による情報が家庭まで届いていないことが原因と考えます。今後も、保護者にとって必要な情報を適宜発信したり、懇談会や保護者全体会等を通して生徒の様子や課題などを伝えたりして、学校からの情報が届くよう努めていきます。

**【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】**

・生徒の学習意欲向上に向けて、教職員の9割が「工夫改善をしている」ことや、生徒と保護者の8割が肯定的回答をしているのは評価できる。校内研究に熱心に取り組んでいることや放課後の学習支援にも力を入れていることも大いに評価したい。生徒の学力の課題は、家庭学習の習慣化だと捉えているのであれば、学校としての新たな取り組みや、小学校から9年間継続して指導できるような体制を作り、学力の向上を目指してほしい。

・8割を超える生徒が「学校行事、部活動等に積極的に参加している」ことや「学校生活に満足している」のは評価できる。特に部活動が盛んなことは、綾瀬中学校の伝統であり、部活動で得るものは大きいので、熱心な指導を継続してほしい。

・9割を超える生徒と保護者が「思いやりの気持ちをもって接している」のは評価できる。地域でも気持ちの良い元気な挨拶が返ってくるのは成果のあらわれである。また、道徳教育や朝読書や学校図書館の活用による読書活動を推進させ、「豊かな心」を育む活動に力を入れていることを評価したい。今後も保護者とも連携して、心優しい人を育てる指導を継続してほしい。

・いじめ防止に向けて、職員「努めている」意識が9割以上に対して、保護者の肯定的な回答は6割であるので、学校での取り組みやいじめ発生時の指導への更なる強化と、保護者と連携した取り組みを進めていってほしい。

・「安全を意識した教育活動が実践されている」ことへの肯定的な回答が9割以上あることを評価したい。災害時の対応にむけた意識が高まっているので、避難訓練だけでなく、非常食（アルファ米）を食べたり、災害時に中学生でも出来る活動の体験をしたりすることも検討してほしい。

・授業を参観して、子どもたちが落ちついた雰囲気で行っている様子がよくわかった。また、学校行事や道徳の授業公開も楽しく参加している様子が見られた。今以上に多くの保護者に、学校行事や授業参観等に参加してもらえるように工夫してほしい。また、学校評価への保護者の回答が6割と低いので、回収率が高まるように工夫してほしい。